

個別施策03

平成23年度 個別施策管理シート

政策	1 グローバルロジスティクスの港	施策推進 責任者	港営部長 企画調整室長
基本施策	01 国際・国内海上輸送機能の強化		
個別施策	03 完成自動車取扱機能を再編する		

1. PLAN(目的・内容)

目的	サービスの対象者(誰のために)	完成自動車輸出入メーカー、港運、船社						
	サービスの対象物(何を)	金城ふ頭及び弥富ふ頭の公共岸壁・保管用地						
	意図(どういう状態にしたいのか)	完成自動車輸出入を効率的で円滑な取扱ができるようにする						
内容	公共ふ頭からの完成自動車輸出は、金城及び弥富の両ふ頭を中心に行われていますが、金城ふ頭東側においては、交流機能への展開を進めており、その状況を踏まえて完成自動車取扱機能の再編を行っていきます。また、弥富ふ頭においても、物流機能の強化を図り、完成自動車が効率的で円滑に取り扱えるようにしていきます。							
目標	公共ふ頭(金城及び弥富ふ頭)での完成自動車取扱量の増加を図ります。						目標達成に影響する外的要因等 世界の景気動向による 貨物量の減少	
成果指標	実績等	年	H19	H20	H21	H22	目標 H24	指標の説明(式)
			実績	千 トン	7,011	6,340	2,829	
公共岸壁での完成自動車取扱貨物量(金城ふ頭及び弥富ふ頭の公共岸壁)	達成率	%	98.7	89.3	39.8	66.8		・目標値は、直近(H19)の最高実績値への回復を目指して設定 ・コンテナは含まない
	実績							
	達成率							

2. Do(個別施策を構成する各事務事業の取組内容と今後の方向性)

重点化	担当課	事務事業名 (コード)	事務事業の概要	主な成果指標 又は活動指標 (単位)	成果・事業費(千円・人件費込)			目標値 (年度)	H22年度事業に基づく評価結果(及びH23年度評価時点までの状況変化も反映)					
					H21	H22	H23		H22年度 末までの 状況 ※1	H23年度以降の取組の方向性			備考(判断の理由・目標年次の変更等)	
					実績 決算額	実績 決算見込額	目標 予算額			事務事業 ※2	成果 ※3	コスト ※4		
○	(企画調整室) 計画担当	完成自動車輸送基地再編計画の策定(港湾計画の策定) (1010301)	名古屋港の完成自動車輸出基地の再編方針に基づき、名古屋港における完成車取扱機能の施設配置を検討します。	策定進捗率(累計) (%)	30	34	54	100 (H25)	遅れ	継続	↗	➡	・物流の環境変化に対応した港湾のマスタープランである港湾計画の改訂に向けて着実に準備する必要があるため。 ・目標年度を23年度から25年度に変更しました。	
	(港営部) 港営課	金城地区における完成自動車輸送基地の再編 (1010302)	利用者に名古屋市のものづくり文化交流拠点構想に伴う完成自動車蔵置場所の移転について説明し調整を行います。	対象利用者の移転完了数(累計)(件)	4	5		5 (H22)	完了					
	(港営部) 港営課	金城地区における完成自動車取扱機能の強化 (1010303)	自動車専用船の岸壁利用を促進するため、荷役機械(ガントリークレーン)の移転、撤去を行い、背後ヤードの利用調整を行います。	背後ヤードの利用調整回数(回)			12	18 継続事業		継続	↗	➡	完成自動車取扱い施設の拡充が必要なため。	
				施策コスト (事業費合計)	5,149	4,665	554,822							

注) 事業費は総事業費から本組合負担分を抽出して計上しています。

注) 目標値欄の「継続事業」は完了年度を定めず行う事業です。この場合の目標値及び目標年度は、原則としてH24年度の間目標として設定しています。

4. ACTION(個別施策全体の今後の取組の方向性)

H23年度以降の取組の方向性	平成23年度取組の方向性の判断の理由(本組合財政収支への影響の考察を含む※5)		
取組の方向性	成果※3	コスト※4	<ul style="list-style-type: none"> 完成自動車は名古屋港の主要貨物であり、公共埠頭における完成自動車取扱の効率化・高度化の対応が必要とされているため成果を拡大としますが、コストは厳しい財政状況を踏まえ、維持とします。
	↗	➡	
今後の展開方向(新規事業の創出、事務事業の見直し等)			
<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災による完成自動車取扱貨物量の落ち込みも回復基調にあり、配置計画の見直しをはじめとした施策をスピード感を持って推進していく必要があります。 完成自動車輸送基地再編計画の港湾計画の策定に関しては、目標年次を新たに25年度に設定し、準備を進めていきます。 また、従来の輸出車両ばかりでなく、海外からの完成車トランシップや逆輸入車などの新たな輸送形態に対応した計画が必要です。 			

3. CHECK(個別施策全体における取組状況と課題)

平成22年度行政評価のACTION(取組の方向性)を踏まえて取り組んだ内容と現状における課題認識	
<ul style="list-style-type: none"> 完成自動車取扱機能強化を図るために、新たに事務事業を設け、バースの利用転換を促進しています。 完成自動車輸送基地再編計画の策定(港湾計画の策定)については、国の港湾行政の指針となる基本方針が策定されるなど作業環境が整ってきたため、順次対応していく必要があります。 特に、ものづくり文化交流拠点構想の進展にともなう金城ふ頭における完成自動車輸送基地の再編計画が必要です。 	
構成事務事業の適正性(事務事業の構成内容が妥当かどうか。問題がある場合は具体的な修正案を記入)	
<ul style="list-style-type: none"> 事務事業の構成内容は概ね適正です。 	

